

令和2年度着手
令和7年度計画変更（第1回）

県営 ひしいけかいこん 菱池開墾地区 土地改良事業計画書
（ 経営体育成基盤整備事業 ）

愛 知 県

目

次

第1章	目的	1	6	級地別土地利用区分	27
第2章	地域及び地積	1	7	土地配分計画	27
第1節	地域	1	第3節	用水計画	28
第2節	地積	1	1	計画基準年	28
第3章	現況	2	2	計画かんがい方式	28
第1節	気象	2	3	計画用水系統	28
1	一般気象	2	4	計画用水量	28
2	特殊気象	4	5	水源計画	31
第2節	土地状況	6	第4節	排水計画	33
1	地形、土壌及び浸食の程度	6	1	計画基準雨量	33
2	土地分類	6	2	計画排水方式	33
3	土地利用の状況	7	3	計画排水系統	33
4	土地所有の状況	7	4	計画排水量	33
第3節	水利状況	8	5	排水対策	33
1	用水状況	8	6	湛水検討	35
2	排水状況	10	第5節	道路計画	35
3	河川状況	12	第6節	農用地造成計画	38
第4節	道路概況	13	第7節	洪水調整計画	38
第5節	地域農業の概況	15	第8節	干拓計画	38
1	産業別就業人口	15	第9節	農用地整備計画	38
2	経営耕地広狭別農業経営体数	16	1	区画整理	38
3	主要家畜頭数	17	2	暗渠排水	40
4	主要作物作付状況	18	3	客土	40
5	農業の動向	19	4	農地保全	40
第6節	地域環境の概況	21	第10節	老朽ため池改修計画	40
1	特に配慮すべき生物環境	21	第5章	主要工事計画	40
2	特に配慮すべき生物以外のもの	21	第1節	用水施設	40
第4章	一般計画	22	1	貯水池	40
第1節	事業計画の要旨	22	2	頭首工	40
1	要旨	22	3	揚水機	41
2	事業別面積	22	4	用水路	41
第2節	営農計画及び土地利用計画	23	5	その他かんがい施設	41
1	営農計画の概要	23	第2節	排水施設	41
2	土地利用区分	23	1	排水水門	41
3	作付方式	24	2	排水機	41
4	生産計画	26	3	排水路	41
5	労働改善計画	27	4	その他排水施設	42

目

次

第3節	道路及び索道	42	第12章	関連する事業	52
1	道路	42	第13章	現況・計画平面図	52
2	索道	42			
第4節	農用地造成	42			
第5節	洪水調整施設	42			
第6節	干拓施設	42			
第7節	農用地整備施設	43			
1	区画整理	43			
2	暗渠排水	43			
3	客土	43			
4	除礫	43			
5	農地保全	44			
第8節	老朽ため池改修施設	44			
第6章	付帯工事計画	44			
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	45			
1	工期	45			
2	工事の年度割予定	45			
第8章	環境との調和への配慮	45			
1	配慮の対象	45			
2	配慮の方法	45			
第9章	換地計画の概要	46			
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	46			
第2節	換地区の設定	46			
1	換地区の名称、所在、面積	46			
2	換地区を設定する理由	46			
第3節	換地計画樹立の基本方針	46			
1	従前の土地の地積の基準	46			
2	用途別予定地積	47			
3	農用地集団化の方針	47			
4	非農用地換地の方法	48			
第4節	土地の評価及び清算の方法	48			
1	評価の方法	48			
2	清算の方法	48			
第5節	換地計画樹立の年度計画	48			
第6節	換地処分の特則	48			
第10章	事業費の総額及び内訳	49			
第11章	効用	50			

第1章 目的

本地区は、愛知県額田郡幸田町の北西部に位置し、一級河川広田川沿いに広がる水田地帯であり、水稻を中心とした営農が展開されている。
 本地区の農地は、明治時代の開墾の際に整備されているが、区画は約10aから30aと小さく、道路幅員が狭い。また、末端の用排兼用水路は堰板による水位管理に多大な労力を要しているとともに、老朽化により排水に支障をきたしている。
 本事業は、区画整理による大区画化、道路拡幅、用排水路を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農業の生産性の向上及び農地中間管理機構を介して担い手への農地集積を促進し、本地域の農業経営の改善と安定を図ることを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
経営体育成基盤整備事業	額田郡幸田町

第2節 地積

((令和元年12月現在))

(令和7年12月現在)

(第2表)

市町村名	現況地目						計 (ha)	備考
	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)			
幸田町	26.6	0.6	-	-	3.4	30.6	登記簿より求積	
合計	26.6	0.6	-	-	3.4	30.6		

第3章 現 況

第1節 気 象

1 一般気象 【変更前】

(第3表-1)

観測所名	岡崎観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	平成10年～平成30年	4月～9月	10月～3月		
平均気温 (℃)		22.2	9.0	15.6	
降水量	平均(mm)	956	569	1,525	
	基準年(mm)	1,219	485	1,704	基準年は昭和24年
降水日数	平均(日)	59	43	102	
	基準年(日)	45	25	70	基準年は昭和24年
根雪期間		一月一日	～ 一月一日	(- 日間)	
無霜期間		3月26日	～ 11月26日	(246 日間)	名古屋地方気象台
最多風向		北西	最大風速 (風 向)	14.8 m/s (南南東)	最多風向発生時期 10 月 ～ 4 月 最大風速発生年月日 平成 30 年 9 月 4 日

【変更後】

(第3表-1)

観測所名	岡崎観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	平成3年～令和2年	4月～9月	10月～3月		
平均気温 (℃)		22.0	9.0	15.5	
降水量	平均(mm)	963	545	1,508	
	基準年(mm)	1,219	485	1,704	基準年は昭和24年
降水日数	平均(日)	60	44	104	
	基準年(日)	45	25	70	基準年は昭和24年
根雪期間		一月一日 ～ 一月一日 (- 日間)			
無霜期間		3月22日 ～ 11月29日 (253 日間)			名古屋地方気象台
最多風向		北西	最大風速 (風 向)	18.0 m/s (北西)	最多風向発生時期 12 月 ～ 4 月 最大風速発生年月日 平成 3 年 2 月 25 日

2 特殊気象

【変更前】

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	
岡崎観測所																
観測期間	量			量			量			量			量			
昭和51年～平成30年																
最大日雨量 (mm)	263.5	H20.8.29	1/347	179.0	H12.9.12	1/18	159.0	S57.8.3	1/9	148.0	S51.9.9	1/6	147.0	H16.10.9	1/6	
最大時間雨量 (mm)	146.5	H20.8.29	計算不能	78.0	H23.9.20	1/48	55.0	H12.9.12	1/9	54.0	H25.9.8	1/9	53.0	S58.6.24	1/8	
最大4時間雨量 (mm)	252.5	H20.8.29 0:00～4:00	計算不能	141.0	H12.9.11 22:00～翌2:00	1/36	108.0	H23.9.20 2:00～6:00	1/9	106.0	H6.9.17 19:00～23:00	1/8	104.0	S56.6.24 3:00～7:00	1/8	
最大連続雨量 (mm)	447.5	H20.8.28 ～8.30	1/360	295.0	H5.6.29 ～7.15	1/13	295.0	H12.9.11 ～9.12	1/13	286.0	H22.9.13 ～9.20	1/11	272.0	S57.7.29 ～8.3	1/9	
最大連続干天日数 (日)	40	S61.1.5 ～2.13	1/73	36	H9.10.8 ～11.12	1/36	32	H11.12.6 ～翌1.6	1/17	31	H21.8.12 ～9.11	1/14	31	H10.12.9 ～翌1.8	1/14	

【変更後】

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	
岡崎観測所																
観測期間	量			量			量			量			量			
昭和51年～令和6年																
最大日雨量 (mm)	268.0	R5.6.2	1/926	263.5	H20.8.29	1/730	179.0	H12.9.12	1/14	159.0	S57.8.3	1/7	155.5	R4.9.23	1/6	
最大時間雨量 (mm)	146.5	H20.8.29	1/1000 以下	78.0	H23.9.20	1/44	67.5	R4.7.26	1/21	55.5	R2.7.25	1/9	55.0	H12.9.12	1/8	
最大4時間雨量 (mm)	252.5	H20.8.29 0:00～	1/1000 以下	141.0	H12.9.11 22:00～	1/34	112.0	R5.6.2 10:00～	1/10	108.0	H23.9.20 2:00～	1/9	106.0	H6.9.17 19:00～	1/8	
最大連続雨量 (mm)	447.5	H20.8.28 ～8.30	1/448	302.5	R5.5.29 ～6.3	1/14	295.0	H5.6.29 ～7.15	1/12	295.0	H12.9.11 ～9.12	1/12	286.0	H2.9.13 ～9.20	1/10	
最大連続干天日数 (日)	40	S61.1.5 ～2.13	1/76	36	H9.10.8 ～11.12	1/37	32	H11.12.6 ～1.6	1/18	31	H7.11.28 ～12.28	1/15	31	H10.12.9 ～1.8	1/15	(5位と同じ) H21.8.12～ 9.11

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目 傾斜区分	田						畑・その他							受益地標高(m)		備考	
		1/1,000	1/1,000	1/100	1/20	1/11.5	計	3°	3°	8°～15°			15°	20°	計	最高		最低
		以下	～ 1/100	～ 1/20	～ 1/11.5	～ 以上		以下	～ 8°	8° ～10°	10° ～15°	小計	～ 20°	以上				
経営体 育成基盤 整備事業	面積 (ha)	26.6	-	-	-	-	26.6	0.6	-	-	-	-	-	-	0.6	7.93	5.61	
	比率 (%)	100	-	-	-	-	100	100	-	-	-	-	-	-	100	-	-	

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表								面積(ha)		備考		
	土壌断面								事業名				
	色	腐植	礫層	酸化 沈殿物	土性			泥炭層 黒泥層 及び グライ層	堆積 様式	母 材		経営体育成 基盤整備事業	計
					表土		下層土						
一層					二層	三層							
菱池統 (黒泥土壌粘土型)	灰色	全層	なし	糸根、膜富 根状有～含	粘質	粘質	粘質	50cm以下泥 炭層あり	集積	ヨシ等	26.6	26.6	田
	黒色												
西尾統 (一)	灰褐 黄褐	なし	なし	なし	壤～ 粘質	壤～ 粘質	壤～ 粘質	なし	洪積	非固結 水成岩	0.6	0.6	畑
計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27.2	27.2	

2 土地分類

該当なし

3 土地利用の状況

((令和元年12月現在))

(令和7年12月現在)

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						原 野	山 林	採 草 放 牧 地	そ の 他	計	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 地 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	樹 園 地 其 他 の (ha)						
経営体育成 基盤整備事業	幸田町	26.6	0.6	-	-	-	-	-	-	-	3.4	30.6	

4 土地所有の状況

((令和元年12月現在))

(令和7年12月現在)

(第4表-4)

事業名	区分	所有別				計	備 考
		個人有地等	国有地	県有地	町有地		
経営体 育成基盤 整備事業	面 積 (ha)	27.2	-	-	3.4	30.6	
	受益者数 (人)	134	-	-	-	134	
	筆 数 (筆)	301	-	-	419	720	
	権 利 関 係	-	-	-	-	-	
	備 考 (関係戸数)	134	-	-	-	134	

第3節 水利状況

1 用水状況

用水は、広田川を取水源とし支線水路は地区内を囲むように開水路が整備されている。農地に接する末端の水路は用排兼用の組立柵渠であり、堰板による水位管理に多大な労力を費やしている。また、老朽化のため配水に支障をきたしている。

(1) 用水系統

(次頁 現況用水系統図参照)

(2) 用水施設

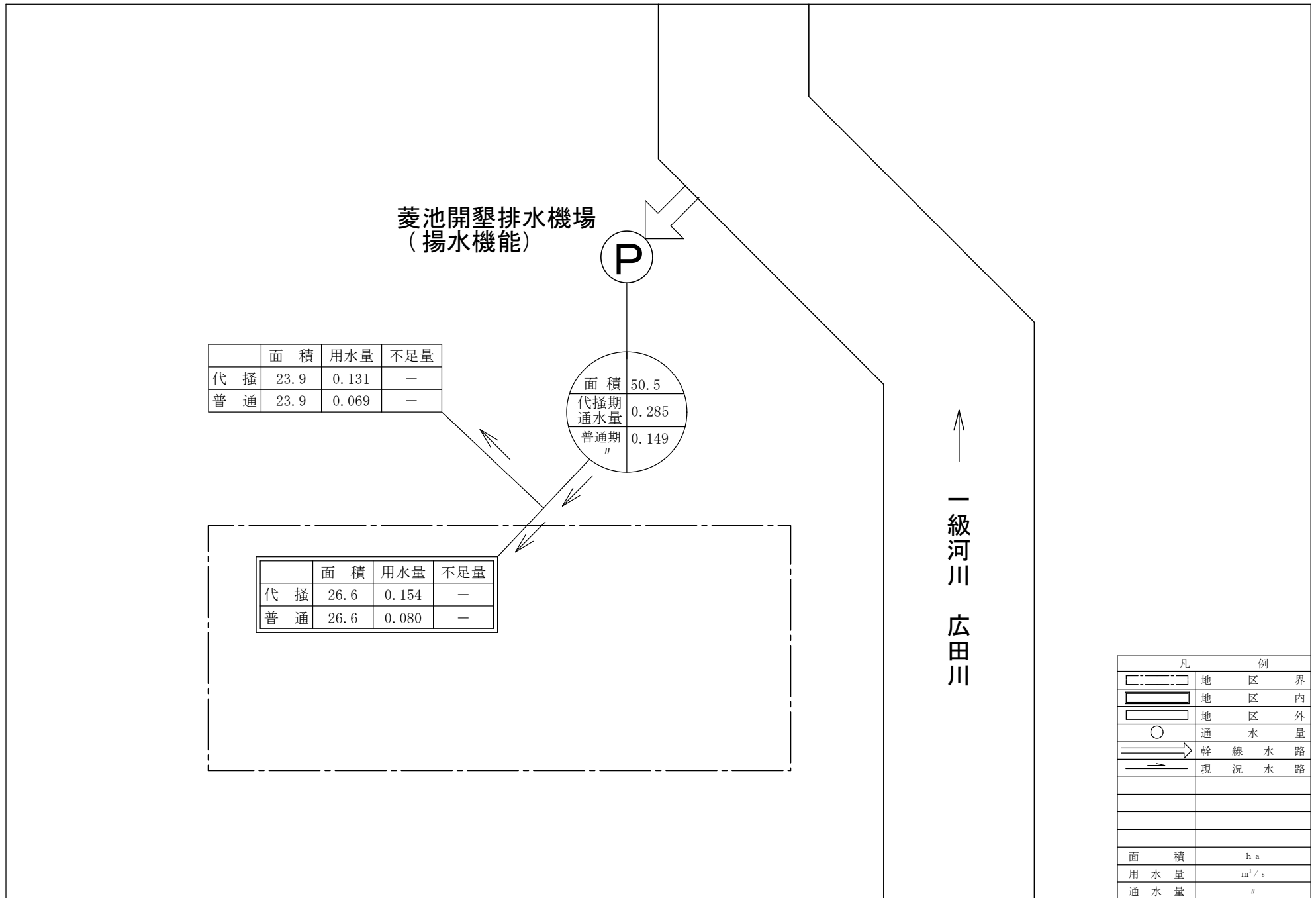
(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権		延べ取水量		備 考	
		500ha以上		100～500ha		100ha未満		箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s		
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha										
経営 体育 成基 盤整 備事 業	貯水池	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	井堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	自然取入口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	揚水機	-	-	-	-	1	[26.6] 50.5	1	[26.6] 50.5	-	-	1	0.530	1	0.530		排水機場を揚水運用
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計	-	-	-	-	1	[26.6] 50.5	1	[26.6] 50.5	-	-	1	0.530	1	0.530		

[]は地区内分で内数

現況用水系統図



(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年又は更新年	改修を必要 とする理由	備 考
	施設名							
経営 体育 成基 盤整 備事 業	貯 水 池	-	-	-	-	-	-	
	井 堰	-	-	-	-	-	-	
	自 然 取 入 口	-	-	-	-	-	-	
	揚 水 機	1	[26.6] 50.5	-	φ 450	昭和53年	遊水地事業 による移転	現況排水機場から 揚水機能を分離
	用 水 路	1	26.6	開水路	U-360×360 ~ I型600×600	不明	用排分離・老朽化	
	そ の 他	-	-	-	-	-	-	
	計		1	[26.6] 50.5				

[]は地区内分で内数

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

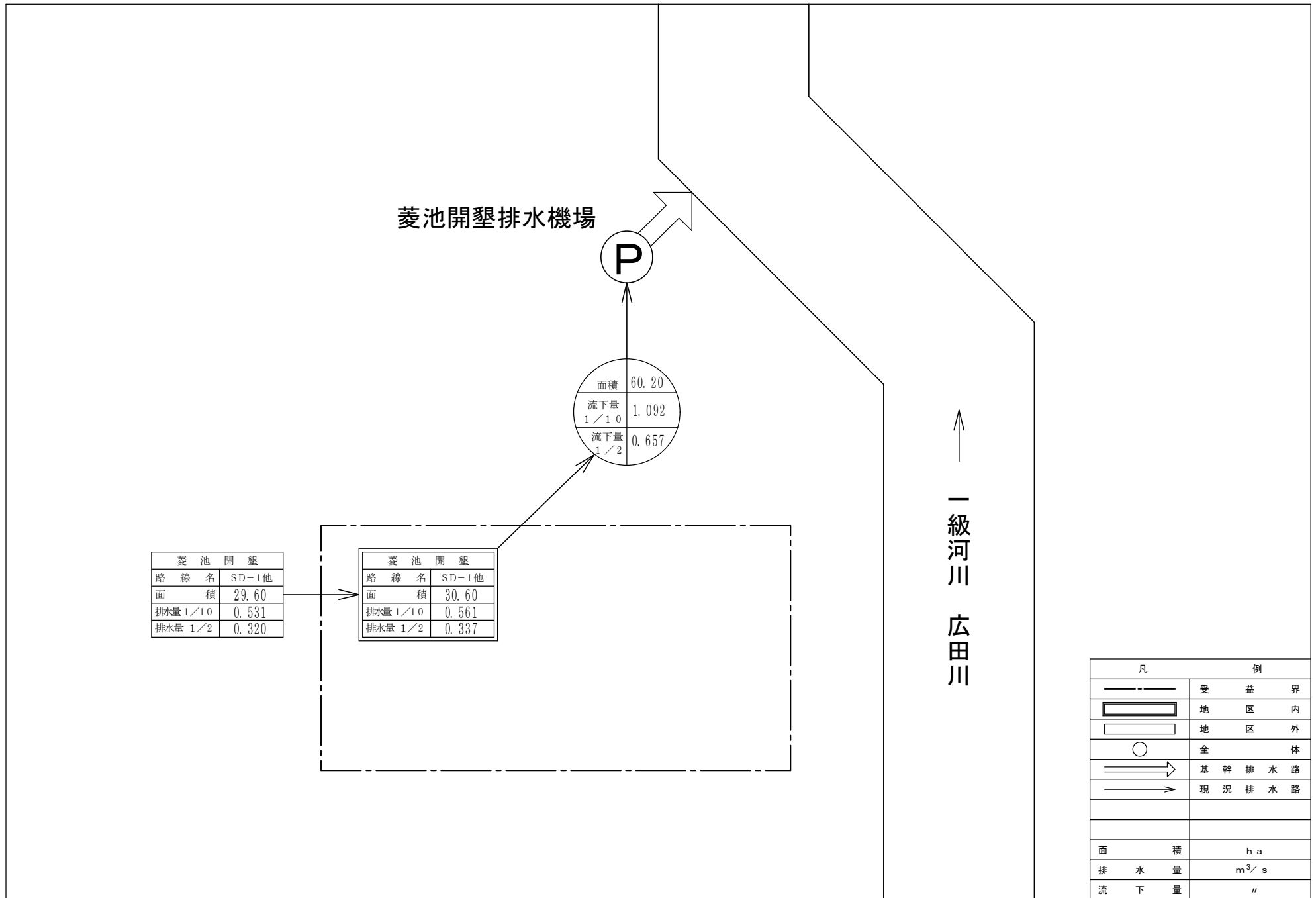
2 排水状況

排水は、用排兼用の組立柵渠から菱池開墾排水機場により広田川に機械排水しているが、敷高不足等による排水不良が生じており、維持管理に多大な労力を費やしている。また、老朽化のため排水に支障をきたしている。

(1) 排水系統

(次頁 現況排水系統図参照)

現況排水系統図



(2) 排水施設
(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m ³ /s)	現況 排水能力 (m ³ /s)	備考
			500ha以上		500~100ha		100ha未満		箇所	ha			
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
経営 体育成 基盤 整備 事業	自然	排水路	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	排水機は当事業の対 象外
		水門	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	-	-	-	-	1	[30.6] 60.2	1	[30.6] 60.2	-	1.092	
	計		-	-	-	-	1	[30.6] 60.2	1	[30.6] 60.2	-	-	

[]は地区内分

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項目 施設名		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模 (mm)	新設年又は 更新年	改修を必要 とする理由	備考
経営 体育成 基盤 整備 事業	自然	排水路	-	-	-	-	-	-	排水機は当事業の対 象外
		水門	-	-	-	-	-	-	
	機械	排水機	-	-	-	-	-	-	
		水門及び排水機	-	-	-	-	-	-	
		排水路及び排水機	支線排水路	30.6	組立柵渠 ブロック積	400×250~ 900×2600	不明	敷高不足 老朽化	
	合計		-	30.6	-	-	-	-	

(3) 排水に関する被害状況
該当なし

3 河川状況
該当なし

第4節 道路概況

1 道路概況

本地区の主要道路は、地区の中央部を東西に横断する都市計画道路である1級町道野場横落線があり、大半の地区内道路はこれに接続している。地区内道路（その他町道）は、幅員が狭小で車両の通行が困難な道路が多く、農作業機械の導入や営農活動に支障をきたしている。

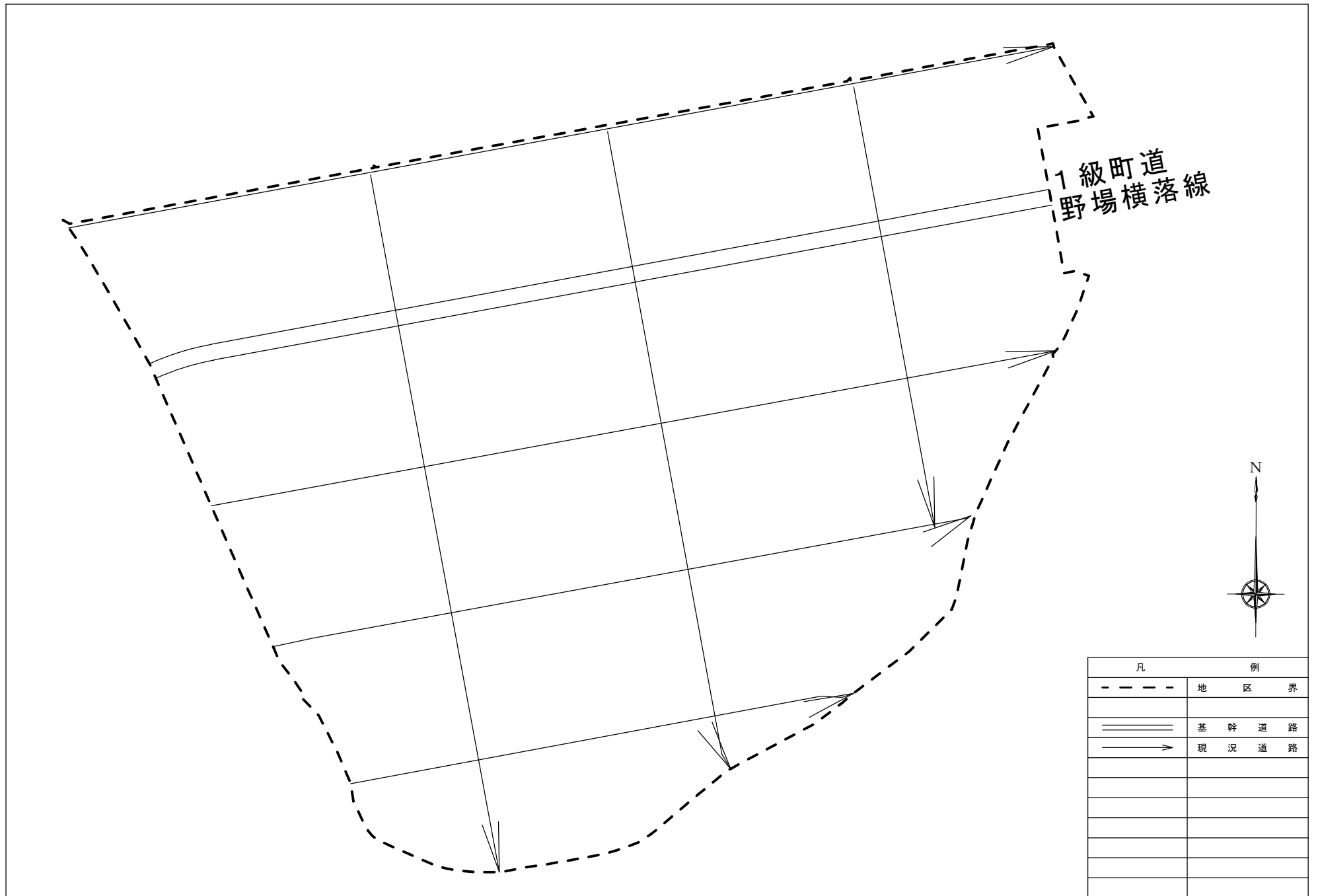
（次頁 現況道路配置図参照）

2 主要道路一覧表

（第6表）

NO.	路線名	管理区分	延長 (m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			
1	1級町道野場横落線	幸田町	2,640	5.00	3.75	アスファルト舗装	否	都市計画道路として改修予定

現況道路配置図



第5節 地域農業の概況

1 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	水熱電 道供ガ 業給ス (人)	通運 信 業輸 (人)	飲小卸 食売 店業売 (人)	保金 険 業融 (人)	不 動 産 業 (人)	サ ー ビ ス 業 (人)	公 務 (人)	そ の 他 (人)	備 考
幸田町	(20,313) 23,075	(747) 733	(4) 3	(4) 3	(2) 5	(1,248) 1,325	(7,581) 9,452	(105) 103	(676) 1,045	(2,432) 2,741	(329) 337	(194) 228	(2,018) 6,533	(518) 567	(4,455) -	
比率(%)	(100.0) 100.0	(3.7) 3.2		0.0	0.0	(6.1) 5.7	(37.3) 41.0	(0.5) 0.4	(3.3) 4.5	(12.0) 11.9	(1.6) 1.5	1.0	(9.9) 28.3	(2.6) 2.5	(22.0) -	

((出典:第65次東海農政局年報,平成27年国勢調査))

(出典:令和2年国勢調査)

2 経営耕地広狭別農家数及び主副業別農家数 【変更前】

(第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数(戸)										自給的農家	1戸当り平均農用地面積(ha)				主副業別農家数(戸)			備考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 以上		田	畑	樹園地	草地	主業	準主業	副業	
幸田町	942	7	99	164	77	29	21	10	3	3	8	521	1.56	0.23	0.68	0.50	79	66	276	
比率(%)	100.0	0.7	10.5	17.4	8.2	3.1	2.2	1.1	0.3	0.3	0.8	55.4	52.6	7.7	22.9	16.8	8.4	7.0	29.2	

(出典:2015年農林業センサス)

2 経営耕地広狭別農業経営体数 【変更後】

(第7表-2)

区分 市町村名	農業経営体数 (経営体)	経営耕地広狭別農業経営体数(経営体)										1経営体当り平均農用地面積(ha)				備考				
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 以上	田	畑	樹園地	草地					
幸田町	342	32	84	126	50	16	9	7	5	4	9	2.93	0.38	0.67	0.50					
比率(%)	100.0	9.4	24.6	36.8	14.6	4.7	2.6	2.0	1.5	1.2	2.6	65.4	8.5	14.9	11.2					

(出典:2020年農林業センサス)

3 動力農機具及び主要家畜頭数

【変更前】

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具						主要家畜								備考
	トラクター		動力田植機		コンバイン		乳用牛		肉用牛		豚		家きん		
	数量 (台)	経営 体数 (経営体)	数量 (台)	経営 体数 (経営体)	数量 (台)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営 体数 (経営体)	
幸田町	385	283	182	172	127	102	X	2	X	5	X	1	-	-	2015年農林業センサス 「-」は、事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
100経営体当り数量 (台, 頭, 100羽)	136		106		125		-		-		-		-		
利用経営体数の割合(%)	66		41		24		/		/		/		/		

(出典:2015年農林業センサス)

3 主要家畜頭数

【変更後】

(第7表-3)

項目 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		家きん		
	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (頭)	経営 体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営 体数 (経営体)	
幸田町	-	-	X	4	X	1	-	-	2020年農林業センサス 「-」は、事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
100経営体当り数量 (頭, 100羽)	-		-		-		-		
飼養経営体数割合(%)	-		1		0		-		

(出典:2020年農林業センサス)

4 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名	幸田町		
	(750)		
総耕地面積 (ha)	879	作付割合 (%)	備考
区分	作付面積 (ha)		
作物名			
	(449)	(66.4)	(2015農林業センサス) 2020年農林業センサス 作付面積は、経営耕地面積のうち販売目的作付け(栽培)した作物の類別作付(栽培)面積である。 「-」は、事実のないもの。 「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの。
水稲	523	63.9	
麦類	(X)	(-)	
	167	20.4	
雑穀	(X)	-	
	-	-	
いも類	(1)	(0.1)	
	X	-	
豆類	(191)	(28.3)	
	X	-	
工芸作物	X	-	
	(X)	(-)	
野菜類	46	5.6	
	(X)	(-)	
果樹類	68	8.3	
	(26)	(3.9)	
花き類・花木	X	-	
	(9)	(1.3)	
その他の作物	15	1.8	
	(676)		
計	819	100.0	

5 農業の動向 【変更前】

(第7表-5)

項目 区分	農家		土地		主要作物		主要家畜		動力農機具		地域指定等	備考					
	B	A	B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A				
変化の状況 (C年を100とする指数)	総農家数	88	80	耕地	90	83	水稻	109	128	乳用牛	X	X	トラクター	75	60	農振整備計画 昭和45年指定 昭和49年認可	A… 平成27年 B… 平成22年 C… 平成17年 農業センサ値
	主業農家数	67	56	田	89	82	麦類	106	X	肉用牛	128	X	動力田植機	74	50	野菜指定産地 平成11年指定 冬春なす 平成14年指定 夏秋なす	—：事実のないもの
	準主業農家数	80	48	畑	89	88	豆類	146	215	豚	X	X	コンバイン	76	59	果樹濃密団地 平成18年指定 温州みかん なし	X：統計数値 が公表されてい ないために指数 を求められない もの
	副業的農家数	77	68				野菜	75	X	家きん	X	X				かき いちじく	
	農業従事者数	70	54				果樹	94	X								酪肉近代化 平成18年指定
変化の理由	他産業への転職、高齢化等に伴い、農家数及び農業従事者数は総じて減少傾向にある。			住宅等への転用により、耕地は減少傾向にある。			生産調整等の施策に伴う飼料米や転作に連動し、水稻、豆類が増加傾向であるが、その他の作物は統計数値が公表されていないため、変化の把握ができない。			飼養農家数の減少から秘密保護のため公表されない品種が多く、変化の把握ができない。			地域全体における農家の減少に伴い、農機具の所有台数も減少傾向にある。				

(出典：2005年, 2010年, 2015年農林業センサス)

【変更後】

(第7表-5)

項目 区分	農業経営体			土地			主要作物			主要家畜			地域指定等	備考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況（C年を100とする指数）	農業経営体数	90	81	耕地	93	109	水稻	117	137	乳用牛	X	-	農振整備計画 昭和45年指定 昭和49年認可 野菜指定産地 平成11年指定 冬春なす 平成14年指定 夏秋なす 果樹濃密団地 平成18年指定 温州みかん なし かき いちじく 酪肉近代化 平成18年指定	A：令和2年 (2020年) B：平成27年 (2015年) C：平成22年 (2010年) 農業セキス値
	個人経営体数	83	66	田	92	119	麦類	X	106	肉用牛	X	X		
	団体経営体(法人)数	61	38	畑	99	92	豆類	147	X	豚	X	X		
	団体経営体(非法人)数	88	73				野菜	X	140	家きん	-	-		
							果樹	X	66					
変化の理由	他産業への転職、高齢化等に伴い、農業経営体数は総じて減少傾向にある。			住宅等への転用により、耕地は減少傾向にあるが、近年は大規模農家の経営拡大等により、経営耕地の増加が見られる。			生産調整等の施策に伴う飼料米や転作に連動し、水稻、麦類、豆類、野菜が増加傾向であるが、果樹については農業経営体の減少に伴い減少傾向にある。			飼養農家数の減少から秘密保護のため公表されない品種が多く、変化の把握ができない。			-：事実のないもの X：統計数値が公表されていないために指数を求められないもの	

(出典：2010年, 2015年, 2020年農林業センサス)

第6節 地域環境の概況

幸田町は、海拔5m～440m間にあり、平地から山村にかけて多くの地形がみられる。山地は本町の東、南、西部の三方を囲むように形成され、東部の山地は岡崎市、蒲郡市と境をなし、本町の最高峰である遠望峰山がそびえている。また南、西部は三河山地の最南端にあたり、三河湾国定公園の一部をなす三ヶ根山を中心とする幡豆山地の北部を占めている。

このように、本町は両側にびょうぶを立てた形で山地が連なっているため、森林をはじめとする緑・自然景観などに非常に恵まれている

1 特に配慮すべき生物環境（植物、植生、動物）

(1) 植物

市街地の周辺は水田が取り巻き、その外周は樹林地や畑地となっている。樹林地は市街地東部及び南西部に広く分布し、クロマツの植林にまじりアラカシ群落、モチツツジ・アカマツ群落、コナラ・クリ群落などがみられ、特に南部ではクロマツ群落が広がっている。果樹園は本町南西部及び北東部に多くみられる。

近年では、クロマツ群落が減少し竹林が広がるなど、植生の変化がみられる。

(2) 動物

動物は、サル・コウモリ・ノウサギ・ネズミ・タヌキ・イタチ・テン・イノシシが生息していたが開発が進み現在みられないものもある。

鳥類では、自然環境で、メジロ・ヒヨドリ・ゴジュウカラ・ジュウイチ・ホオジロ・ヨタカ・ヒバリなどをみることができる。

昆虫に関しては、山間部から田園地帯にわたりゲンジボタル、水たまりや水田では、ゲンゴロウ・タガネなどがみられる。

魚類に関しては、山間地の川にギギが見られる。水田地帯では、ドジョウ・ウナギ・フナ・コイなどが多く生息する。

貝類では、水田地帯でカラスガイが多く生息する。

2 特に配慮すべき生物以外のもの（景観・文化財他）

東部及び南部の遠望峰山・三ヶ根山を中心とする三河湾国定公園などの山並みに囲まれ、里山の緑や河川、本町中央部の市街地周辺を取りまく農地やため池などにより、自然豊かな景観が広がっている地域である。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要旨

本事業は、区画整理による大区画化、道路拡幅、用排水路を整備することで生産性の高い優良農地を確保するとともに、農業の生産性の向上及び農地中間管理機構を介して担い手への農地集積を促進し、本地域の農業経営の改善と安定を図ることを目的とする。

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地 利用区分 事業目的	経営体育成基盤整備事業												計 (ha)	備考
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)		
区画整理	(22.0) 21.4	(4.0) 4.5	-	-	(4.6) 4.7	30.6	-	-	-	-	-	-	30.6	計画平面図 より図測求積
計	(22.0) 21.4	(4.0) 4.5	-	-	(4.6) 4.7	30.6	-	-	-	-	-	-	30.6	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1 営農計画の概要

計画の標準区画を90a (50m×180m)とし、農地中間管理権を利用して担い手への農地集積集団化を図り、担い手農家による大型機械の利用による低コスト営農を確立し、農業経営の安定を図るものとする。

(22.0) (4.0) (26.0)

事業後の土地利用区分は、田21.4ha、普通畑4.5haの計25.9haを計画する。営農類型は、「水稲」、「さつまいも」とし、地域の特性を生かした農業発展を目指す。

2 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用 区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	区分												
経営体 育成基盤 整備事業	現況	26.6	0.6	-	-	-	-	27.2	-	-	3.4	30.6	
	計画	(22.0) 21.4	(4.0) 4.5	-	-	-	-	(26.0) 25.9	-	-	(4.6) 4.7	30.6	

【変更後】

(第9表-2)

事業名	項目	経営 類型	土地 利用 区分	1年目												2年目												3年目												備 考
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
				現況	水稲	水田			○	—	△	—	—	—	—	—	—	×				○	—	△	—	—	—	—	—	×				○	—	△	—	—	—	
たまねぎ(春)		△	—				×	—	—	×		○	△	—	—	—	△	—	×	—	×		○	△	—	—	—	△	—	×	—	×		○	△	—	—	—	—	—
計画	水稲	水田			○	—	△	—	—	—	—	—	—	×				○	—	△	—	—	—	—	—	×				○	—	△	—	—	—	—	×			
			さつまいも			○	△	—	—	—	×								○	△	—	—	—	×							○	△	—	—	—	×				

○・・・播種
△・・・定植
×・・・収穫

4 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目 土地利用区分		作物名	作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増減の内訳 (t)		備考
				現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積当たり収量増加	
	経営体 育成基盤 整備事業	水田		表作	水稻	24.3	(21.6) 21.0	(△2.7) △3.3	98	(84) 82	(517) 506	(548) 536	(31) 30	(125.6) 123.0	(118.4) 112.6	(△7.2) △10.4	
裏作																	
普通畑		春夏作	さつまいも	-	(4.0) 4.5	(4.0) 4.5	-	(16) 18	-	(1,751) 1,685	(1,751) 1,685	-	(70.0) 75.8	(70.0) 75.8	(70.0) 75.8	-	
		秋冬作	たまねぎ(春)	0.6	-	△0.6	2	-	3,987	-	△3,987	23.9	-	△23.9	△23.9	-	
計				[24.9] 24.9	([25.6]) (25.6) 0.6												

* 作付面積欄の計で[]内は実面積、外は延作付面積
* 作付面積は本地面積

(田→田) 94% → 98%
(田→畑) 94% → 100%
(畑→畑) 100% → 100%

5 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地利用区分	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当り労働投下量(hr/10a)				備考
				区分	現況	計画	増減	
経営体育成基盤整備事業	水田	水稲	(21.6)	人 力	35.5	11.0	△ 24.5	作付面積 上段：計画 下段：[現況]
			21.0					
			[24.3]	機 械 力	6.4	2.1	△ 4.3	
	普通畑	さつまいも	(4.0)	人 力	66.9	61.3	△ 5.6	
			4.5					
			[-]	機 械 力	3.9	2.3	△ 1.6	
計		(25.6)	/	/	/	/	△は減を示す。	
		25.5						
		[24.3]						

6 級地別土地利用区分
該当なし

7 土地配分計画
該当なし

第3節 用水計画

1 計画基準年
 昭和22年 国営新矢作川用水土地改良事業による。

2 計画かんがい方式
 かんがい方式
 水田 パイプラインによる貯留かんがい方式
 畑 パイプラインによる畝間かんがい方式

かんがい期間
 水田（早期） 4月1日～7月31日（代掻5日間）
 水田（普通期） 4月26日～8月25日（代掻5日間）
 畑 通年

3 計画用水系統
 （次頁 計画用水系統図 参照）

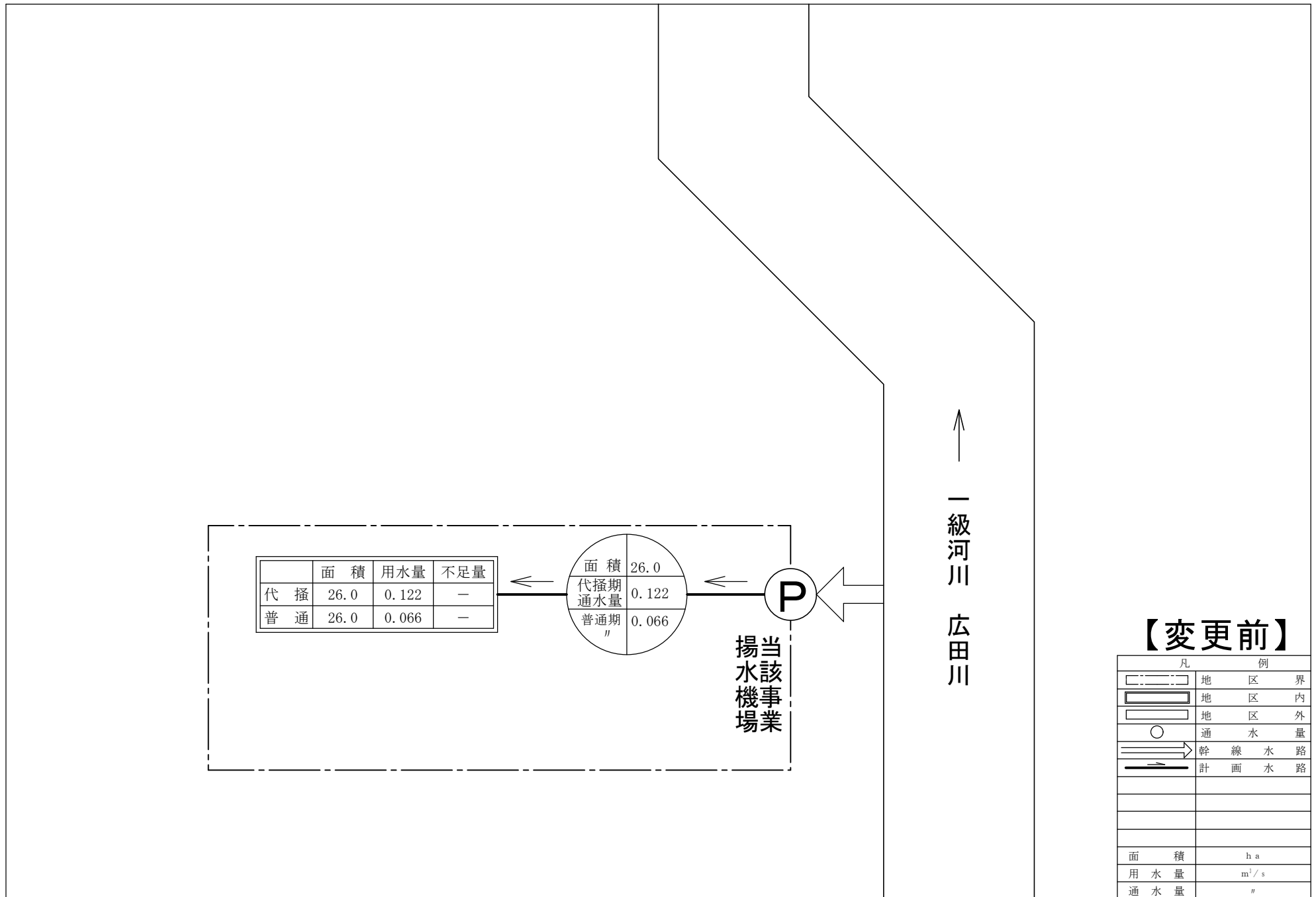
4 計画用水量
 (1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項目 系統名	種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
		事業名		普通期	代掻期	面 積	1日当 り計画	平均 間断	面 積	1日当 り計画	平均 間断	面 積	計 画	面			平 均	最 大	
		経営体 育成基 盤整備 事業	計	計 画	計 画		平均か ん水深	間断 日数		平均か ん水深	間断 日数		平 均	面 積					
				単 位 用 水 量 (mm/日)	単 位 用 水 量 (mm/日)	(ha)	(mm/日)	(日)	(ha)	(mm/日)	(日)	(ha)	(mm/日)	(ha)					
菱池開墾	農業用水	(26.0)	(26.0)	13.1	150.0	22.0	-	-	-	3.4	3	4.0	-	-	0.109	10	0.066	0.122	
		25.9	25.9																

(2) 営農飲雑用水
 該当なし

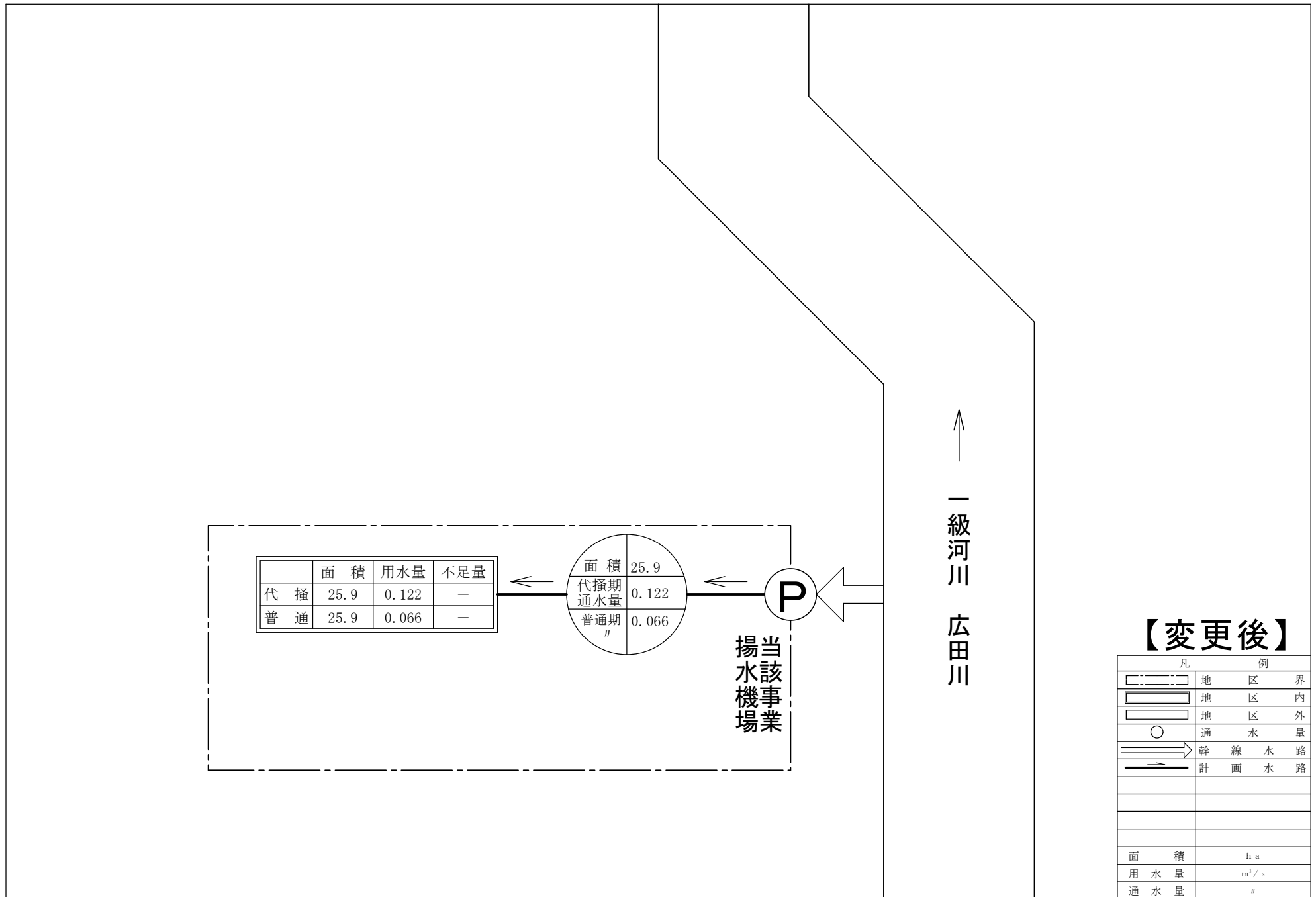
計 画 用 水 系 統 図



【変更前】

凡 例	
	地 区 界
	地 区 内
	地 区 外
	通 水 量
	幹 線 水 路
	計 画 水 路
面積	h a
用水量	m ³ /s
通水量	"

計 画 用 水 系 統 図



【変更後】

凡 例	
	地 区 界
	地 区 内
	地 区 外
	通 水 量
	幹 線 水 路
	計 画 水 路
面積	h a
用水量	m ³ /s
通水量	"

5 水源計画
 (1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源 工種	備考
					水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足水量	全不足水量	水源名	水量		
					a (千m ³)	b (千m ³)	c=a-b (千m ³)	d=c/(1-α) (千m ³)	e (千m ³)	f (千m ³)	g=c-f (千m ³)		
事業名 経営体 育成基盤 整備事業	481.0	20.8	460.2	511.3	広田川	511.3	460.2	-	-	広田川	511.3	既設利用	α=10%

(2) 用水対策

(ア) 貯水池
 該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口
 該当なし

(ウ) 揚水機

(第10表-5)

項目 名称	水源名	かんがい面積(ha)		所要水量		揚水機				備考
		事業名		最大	平均	実揚程	揚水量	台数	全揚水量	
		経営体育成 基盤整備事業	計	(m ³ /s)	(m ³ /s)	(m)	(m ³ /s)	(台)	(m ³ /s)	
菱池開墾揚水機場	広田川	(26.0) 25.9	(26.0) 25.9	0.140	0.140	13.1	0.070	2	0.140	

(エ) 用水路

(第10表-6)

名 称	項 目	かんがい面積(ha)		最大通水量 (m ³ /s)	延 長 (km)	構 造	備 考
		事 業 名					
		経営体育成 基盤整備事業	計				
用水路		(26.0) 25.9	(26.0) 25.9	1.400	4.1	塩ビ管	φ75~350

(オ) その他の水源施設
該当なし(3) 水質水温
該当なし

第4節 排水計画

1 計画基準雨量

日雨量 169.9mm/日 (1/10年確率) 岡崎観測所 (1891年～1914年・1933年～2018年) 及び安城観測所 (1915年～1932年) の既往128年間の観測記録から岩井法により確率雨量を求める。(ただし1950年は欠測)
 R24 = 166.9mm/日 R4 = 69.4mm/4hr

2 計画排水方式

自然排水 4時間雨量・4時間排除
 ただし、水田は日雨量・日排除

3 計画排水系統

(次頁 計画排水系統図 参照)

4 計画排水量

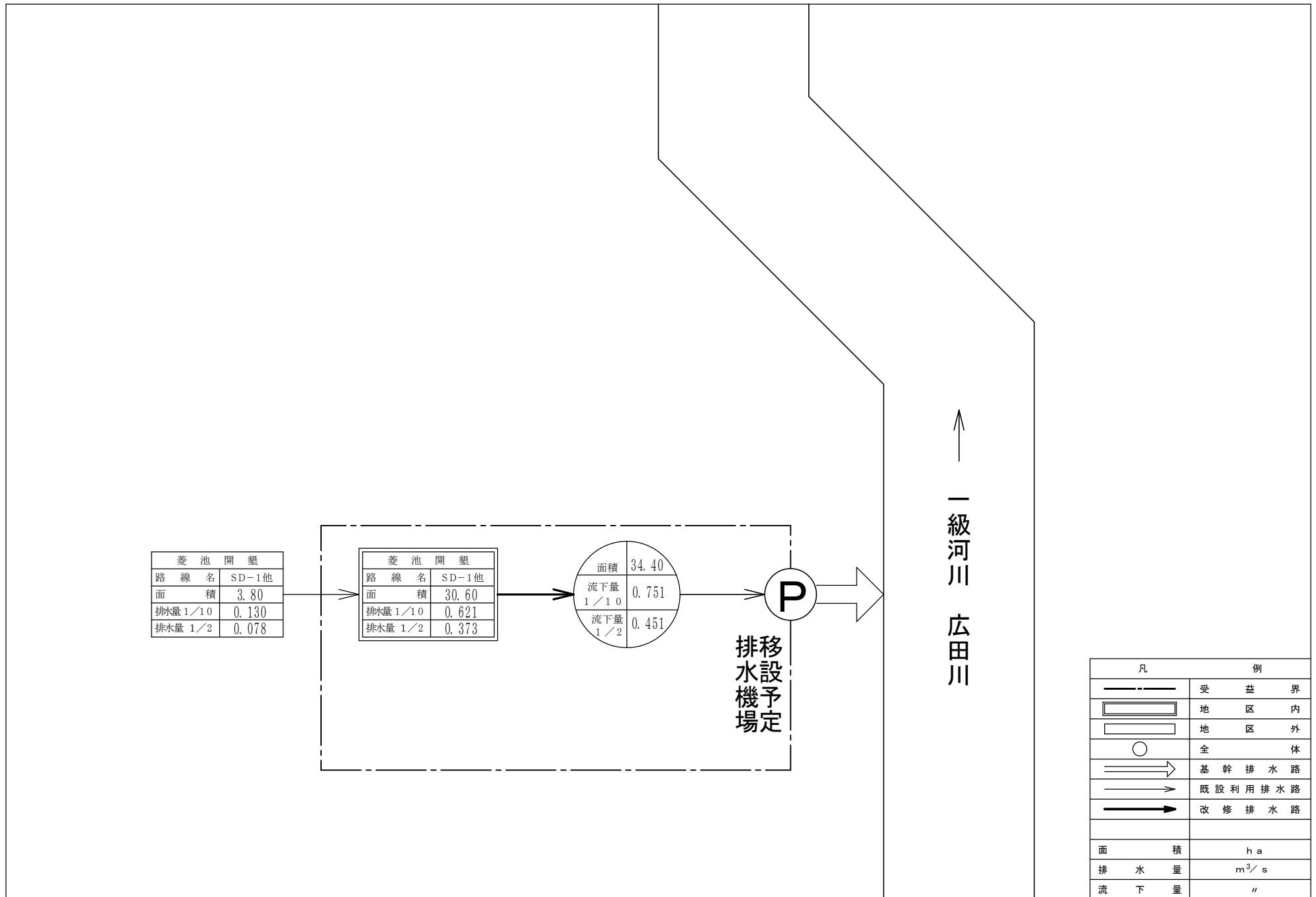
(第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)		流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm) <small>上段:4時間雨量・4時間排除 下段:日雨量・日排除</small>	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)		単位排出量 (m ³ /s/km ²)		備考
	事業名		山地	平地		山地	平地	山地	平地	平地		山地	平地	
	経営体	計								自然排水	機械排水			
菱池開墾排水機場	(26.0)	(26.0)	—	(0.339)	69.4	—	1.573	—	—	—	0.751	—	—	1.573
	25.9	25.9		0.344			166.9							2.410

5 排水対策

- (1) 排水水門
該当なし
- (2) 排水機
該当なし

計画排水系統図



(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積(ha)		計画排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	排水本川			備考
		事業名					名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		経営体育成 基盤整備事業	計							
支線排水路	(0.339) 0.344	(26.0) 25.9	(26.0) 25.9	0.751	3.4	組立柵渠 I 型	—	—	—	改修

(4) その他

該当なし

6 湛水検討

該当なし

第5節 道路計画

1 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

路線名	項目	幅(有効) (m)	×	延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
支線道路		5.0	(4.0)	×	4.5	砂利舗装	町道への連絡 区画整理

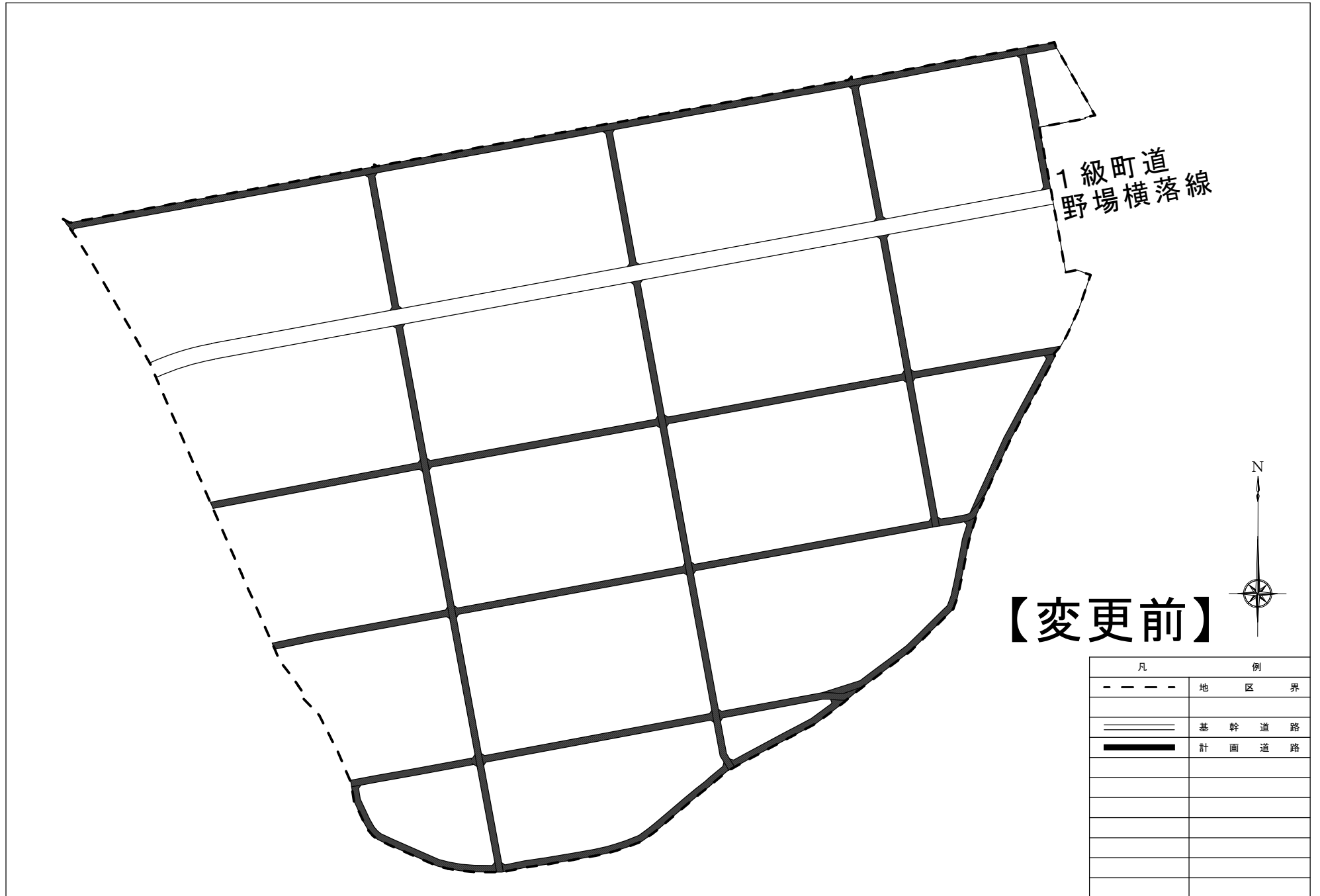
(2) 索道

該当なし

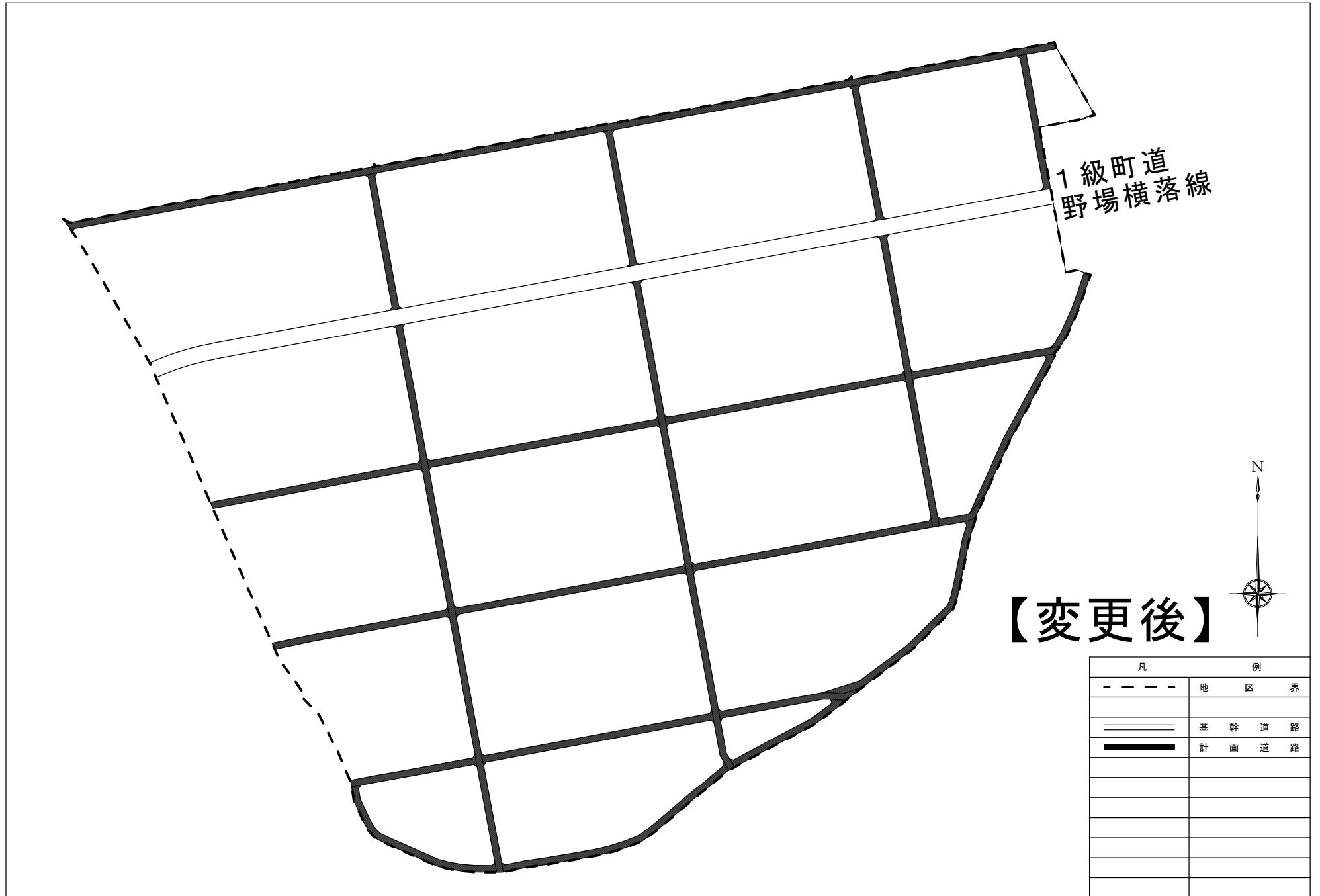
2 路線配置図

(次頁 計画道路配置図 参照)

計画道路配置図



計 画 道 路 配 置 図



第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調整計画

該当なし

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

1 区画整理

本地区は、明治時代の開墾の際に一次整備が済んでいるが、区画は小さく、道路幅員も狭い。末端の用排兼用水路は堰板による水位管理に多大な労力を要しているとともに、敷高不足による排水不良が生じており、また老朽化のため維持管理に多大な労力を費やしている。このため、区画整理により、標準区画90a（50m×180m）を基本とする区画整理を行い、大型機械の導入及び農地の集団化を図る。

(1) 区画の形状

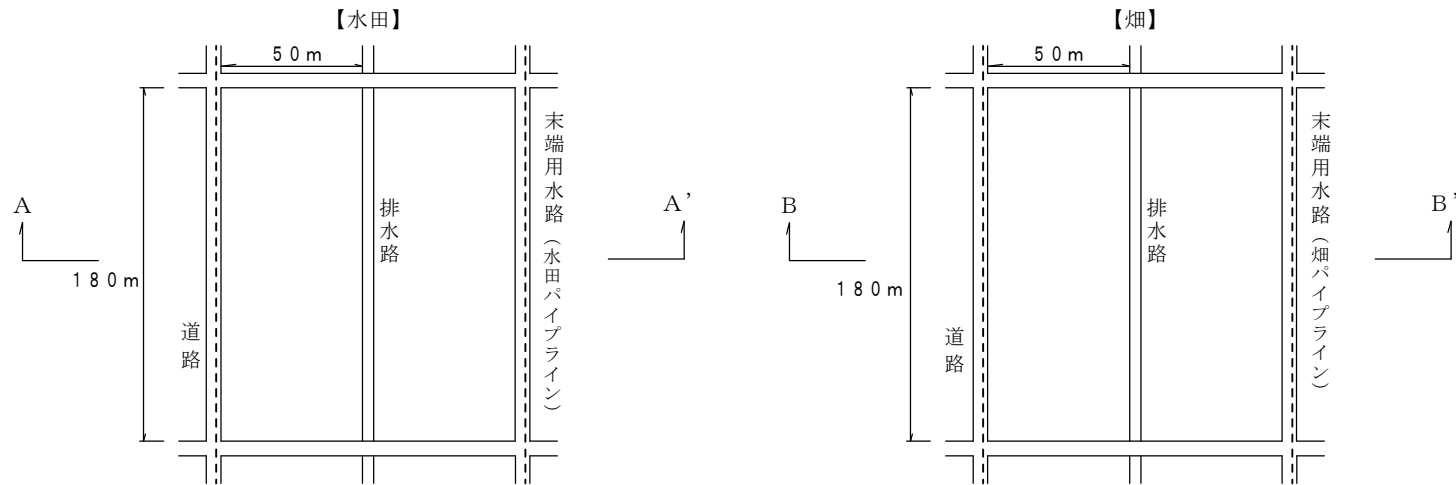
(第16表-1)

長辺 × 短辺 (m)		区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
水田	50×100～	0.5～	(20.8) 19.9	(80) 77	-	
	50×60～100	0.3～0.5	(1.0) 1.3	(4) 5	-	
	～50×60	～0.3	0.2	1	-	
畑	～50×180	～0.9	(4.0) 4.5	(15) 17	-	
計			(26.0) 25.9			

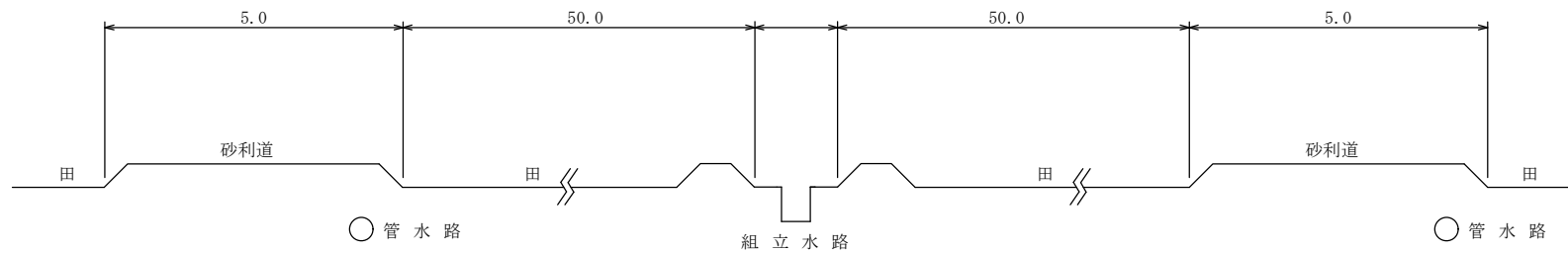
(2) 表土扱い 該当なし

(3) 末端道水路配置図 (次頁 末端道水路配置図参照)

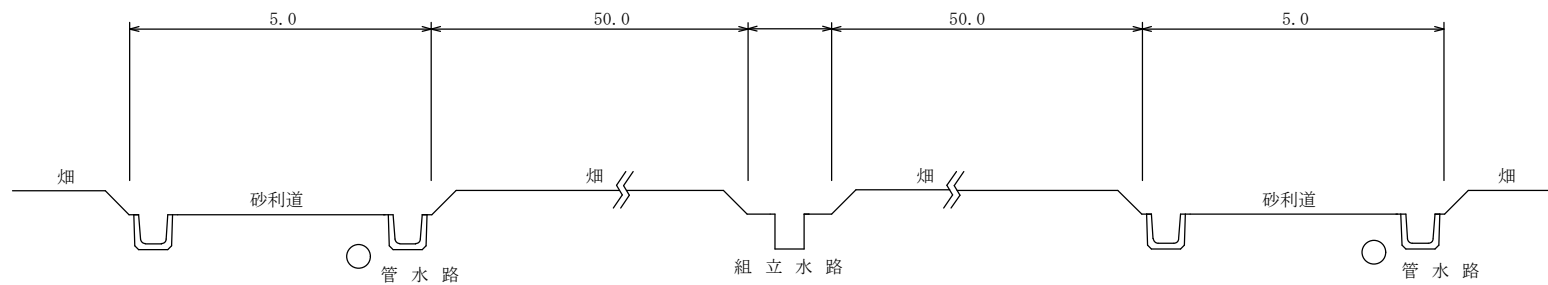
末端道水路配置図



(単位：m) A ~ A' 断面



(単位：m) B ~ B' 断面



2 暗渠排水
該当なし

3 客土

項目 区分	面積 (ha)		土壌 統(区)名	減水深 (mm/日)		作土の厚さ (cm)		10a当りの 客土量 (m ³)	土壌の性質		備考
	事業名			現況 平均	計画 平均	現況 平均	計画 平均		受益地 (%)	採土地 客土材料 (%)	
	経営体育成 基盤整備事業	計									
水田から畑に変更	(4.0) 4.5	(4.0) 4.5	黒泥土壤 粘土型	—	—	25.0	25.0	(383) 587	—	—	10a当りの客土量： $26400\text{m}^3 \div (4.5 \times 10) \text{a} \div$ $587\text{m}^3/10\text{a}$

4 農地保全
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1 貯水池
該当なし

2 頭首工
該当なし

3 揚水機

名称	項目	位置	揚水量 (m ³ /s)	揚程(m)		揚水機			原動機			備考
				全揚程	実揚程	型式	口径(mm)	台数(台)	型式	動力(kw)	台数(台)	
菱池開墾揚水機場		幸田町大字菱池	0.140	14.0	13.1	渦巻	φ200	2	モーター	55	2	

4 用水路

(第17表-4)

区分	項目	かんがい面積(ha)		通水量 (m ³ /s)	延長(km)			構造	勾配 (%)	主要構造物	備考
		事業名			開きよ	トンネル その他	計				
		経営体育成 基盤整備事業	計								
用水路		(26.0) 25.9	(26.0) 25.9	0.001~0.140	-	4.1	4.1	塩ビ管 φ75~φ350	0.03~14.04	-	改修

5 その他かんがい施設
該当なし

第2節 排水施設

1 排水水門
該当なし

2 排水機
該当なし

3 排水路

(第18表-3)

区分	項目	受益面積(ha)		排水量 (m ³ /s)	延長(km)			構造	勾配 (%)	主要構造物	備考
		事業名			開きよ	トンネル その他	計				
		経営体育成 基盤整備事業	計								
支線排水路		(26.0) 25.9	(26.0) 25.9	0.751	3.4	-	3.4	組立柵渠 I 型	0.01~0.14	-	改修

4 その他排水施設
該当なし

第3節 道路及び索道

1 道路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項目 路線名	路線名	幅(有効) × 延長 (m) (km)	構造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左の 延長 (m)	最小 曲線半径 (m)	備考
				名称	構造	数量 (箇所)				
農道	9路線	5.0 (4.0) × 4.5	砂利舗装	-	-	-	5.8	4,464	-	

(2) 道路主要構造物
該当なし

2 索道
該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調整施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

1 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量 (m ³)	面積 (ha)	土量 (m ³)	
菱池開墾	(20.8) 19.9	50×100～	(7,019) 6,715	-	-	水田
	(1.0) 1.3	50×60～100	(789) 1,026	-	-	水田
	0.2	～50×60	272	-	-	水田
	(4.0) 4.5	～50×180	(18,650) 32,193	-	-	畑

(2) 末端用水路等
該当なし

(3) 末端排水路等
該当なし

2 暗渠排水

該当なし

3 客土

項目 区分	面積 (ha)		客入土量 (m ³)	土取場土量 (m ³)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
	事業名						
	経営体育成 基盤整備事業	計					
水田から畑に変更	(4.0)	(4.0)	(15,294)	-	-	-	
	4.5	4.5	26,400				

4 除礫

該当なし

5 農地保全
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

該当なし

第6章 付帯工事計画

用地買収及び補償費

(1) 用地買収
該当なし

(2) 補償費
電柱補償・・・・・・・・ 7本 (コンクリート柱)

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

- 1 工期 着手 令和2年度
(7)
完了予定 令和9年度 (予定)

2 工事の年度割予定

(変更前)

工種 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	備考
区画整理							

(変更後)

工種 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	備考
区画整理									

第8章 環境との調和への配慮

1 配慮の対象

地区内の排水路には、モツゴやカワムツ、ヌマエビ等の生息が確認されており、良好な生物生息空間が確保されているため、生息環境の保全に配慮していくものとする。

2 配慮の方法

本地区は、幸田町田園環境整備マスタープランにおいて、環境配慮区域となっている。
施工時期は保全対象生物が少ない時期を選び、エリアを区切って施工することにより工事期間中の生物の生息環境を確保することとする。また、濁水及び土砂流出の防止を図るとともに、低騒音・低振動・排出ガス対策の作業機械を使用し、周辺環境に配慮する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

生産基盤整備事業による高生産性農業が見込まれる大規模農地を整備することにより、将来の農業生産を担う経営体への農用地利用集積・農作業受委託を積極的に進め、土地利用の合理化を図る換地計画を作成するものとする。

第2節 換地区の設定

1 換地区の名称、所在、面積

(第25表-1)

換地区名	換地区の所在地	面積 (ha)
菱池開墾	額田郡幸田町大字菱池字菱池	30.6

2 換地区を設定する理由 該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1 従前の土地の地積の基準

(第25表-2)

換地区名	地積の基準
菱池開墾	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の登記簿地積とする。 ただし、上記の日から6か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して幸田土地改良区へ申出があった場合は、その申出のあった地積とする。この場合、測量等にかかる費用は本人負担とする。

2 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表-3)

用途 (取得 予定者)	非農用地区域外に換地する土地											非農用地区域に換地する土地							機能交換に係る土地				一般 国 公有地	総合 計							
	換地区名	田	畑	山林・ 原野	その他	通常事業施行地 域に含める土地 (令第1条の9() 書き)			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創設 農用地	合計	特定用途 地			異種 目換地	創設非農用地						合計	国	県	市 町 村 他	合計		
						施設 改良	土地 改良	その他		計	改良 区	その他			計	宅 地	その他		計	農業 経営 合理化 施設 用地	生活 上・ 経営 上 必要 な 施設 用地	公用 ・ 公共 用 施設 用地								宅 地 等	計
菱池開墾	従前地	25.8	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.6	
	換地	(22.0)	(4.0)	-	-	-	-	(26.0)	-	-	-	-	(26.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(3.8)	(3.8)	-	-	30.6		
		21.4	4.5					25.9					25.9												3.9	3.9			30.6		

3 農用地集団化の方針

(第25表-4)

換地区名	区分	地帯別・グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
菱池開墾		地目別集団化 農用地利用集積促進区 域別集団化	水田及び畑の区域を設定し、各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に定める。 経営体への農用地の利用集積を積極的に図る区域を設定する場合には、当該区域に関する権利者の承諾を得るようにするとともに、当該区域内に換地が定められることを希望する者は、できるだけ当該区域内に換地が定められるようにする。	1～2団地	移動畦畔

4 非農用地換地の方法

(第25表-5)

区分 換地区名	用途	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の方法	換地取得予定者	その他
菱池開墾	揚排水機場用地	額田郡幸田町大字菱池字菱池地内	1,627	異種目換地	従前地所有者 (額田郡幸田町)	
	導水路用地	額田郡幸田町大字菱池字菱池地内	1,872	異種目換地	従前地所有者 (額田郡幸田町)	
	町道用地	額田郡幸田町大字菱池字菱池地内	4,217	異種目換地	従前地所有者 (額田郡幸田町)	
合 計			7,716			

第4節 土地の評価及び清算の方法

1 評価の方法

項目別配点方式

土地の自然条件及び利用条件等を調査項目とし、それらの条件の比重によって100点を配分して評価採点基準表を作成し、換地・評価委員がその項目内における条件の程度を点数に置き換え、項目毎に採点をし、その合計点数からその土地の等位を定め、その等位から価格を評定する。

2 清算の方法

比例地積清算

従前、換地の評価額に基づき、その事業による価格上昇分を増加額として算出する。それを1㎡当たりの増加額に割り戻す事により各人別に換地交付基準額を算出し、各人の換地評価額を比較し清算する。

第5節 換地計画樹立の年度計画

区分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備考
菱池開墾	(6) 令和 10 年度	(7) 令和 10 年度	(7) 令和 10 年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

換地区の全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは、土地改良法第89条の2第10項において準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分を行うことができる。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分	事業名	経営体育成基盤整備事業	備考
		(千円)	
	事業費 ^{※1)}	(922,000) 1,700,000	
	事務的経費 ^{※2)}	(65,420) 117,000	
	計	(987,420) 1,817,000	
(関連事業参考)	(-)	(-)	基幹排水
	県営緊急農地防災事業 菱池開墾地区	152,925	

(令和元年度)

令和7年度単価。消費税については10%にて算定。(ただし、物価変動により将来変動することがある。)

※1)事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2)事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第11章 効 用

(第27表)

事業名	区 分	項目	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）		備 考
					うち機能向上分	
経営体 育成基盤 整備事業	作物生産効果		(29,490)	(8,590)	(8,590)	
			33,568	5,511	5,511	
	品質向上効果		(2,154)	(1,066)	(1,066)	
			2,291	1,152	1,152	
	営農経費節減効果		(14,847)	(18,213)	(18,213)	
			20,738	24,365	24,365	
	維持管理費節減効果		(△ 681)	(1,103)	(1,103)	
			△ 557	1,682	1,682	
	営農に係る走行経費節減効果		(2,084)	-	-	
			2,385			
	耕作放棄防止効果		(3)	-	-	
		4				
災害防止効果 （農業関係資産）		(-)	(-)	-		
		38,943	34,321			
地籍確定効果		(604)	-	-		
		834				
非農用地等創設効果		(2,294)	-	-		
		3,563				
国産農産物安定供給効果		(5,201)	-	-		
		7,313				
	計	(55,996)	(28,972)	(28,972)	(1,064,871)	
		109,082	67,031	32,710	総便益額 2,547,242千円	

(令和元年度単価)
令和7年度単価

	(788,050)		
<参考> ①当該事業費	1,729,377 千円		
	(160,124)		
②その他費用	632,597 千円		
	(948,174)		
③総費用	2,361,974 千円		
④年償還額	- 千円/年		
④' うち機能向上分	- 千円/年		
	(55,996)		
⑤年総効果（便益）額	109,082 千円/年		
	(7,171)		
⑥現況年総農業所得額	8,756 千円/年		
	(28,972)		
⑦年総増加農業所得額	67,031 千円/年		
	(46)		
評価期間	48 年		
割引率	0.04		
	(1,064,871)		
⑧総便益額	2,547,242 千円		
	(1.12)		
⑨総費用総便益比 (⑧÷③)	1.07	≧	1.0
⑩総所得償還率 (④÷⑥)	-	≦	0.2
⑪増加所得償還率 (④' ÷⑦)	-	≦	0.4

第12章 関連する事業

(変更前)

該当なし

(変更後)

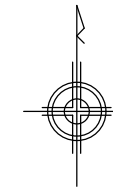
区分	事業名	事業主体	受益面積(ha)	事業内容
県営	緊急農地防災事業 菱池開墾地区	愛知県	30.7	基幹排水 (令和3年度～令和5年度)

第13章 現況・計画平面図

別添のとおり

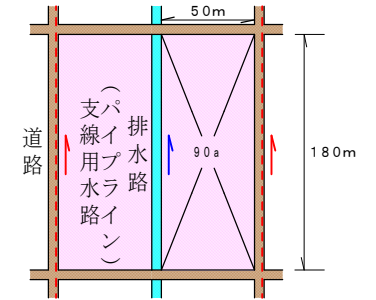
計 画 概 要 図

位置図



標準区画割図

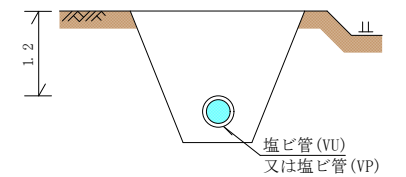
【水田】



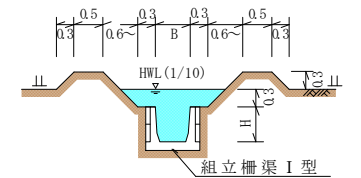
標準構造図

(単位：m)

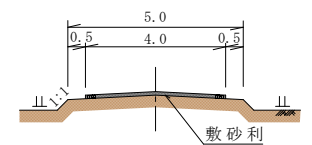
用水路工



排水路工



道路工



【変更後】

凡	例
-----	地 区 界
■	水 田
■	畑
■	創設非農用地
—	改修用水路(支線・パイプ)
Ⓟ	揚水機場
—	改修排水路(支線)
—	道 路
関連事業	
Ⓟ	排水機場

